

# 人権さんだ

12月号

令和3年(2021)

No.513

手話で広がる未来へ  
～手話は見る言葉～

《問い合わせ》  
福祉共生部共生社会推進室人権推進課  
TEL : 559-5148 FAX : 562-1294  
E-mail : jinken\_u@city.sanda.lg.jp



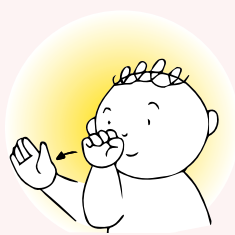
▲子ども手話教室の様子

三田市では、平成29年4月に聴覚障害者（聞こえない・聞こえにくい人）への理解を広め、お互いの人格と個性を尊重し、共に生きることができる社会の実現を図ることを目的として、「三田市みんなの手話言語条例」を制定しました。

この条例では、手話が言語であるとの認識に基づき、手話への理解や聴覚障害者への理解、手話が使いやすい環境づくり、聴覚障害者の特性に応じた意思疎通支援などを定めています。

具体的には、手話を言語と認めることで、市は市民の皆さんがあらゆる場面で手話を使用できる環境になるよう手話教室の開催などの普及啓発を行い、聴覚障害者の社会参加の促進や学校での手話学習の普及を行います。

「三田市みんなの手話言語条例」が制定されて5年目を迎えました。今号では、「三田聴覚障害者協会」と「手話サークル」のみなさんにお話を伺いました。



「よろしくお願いします」

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

## 手話の歴史をたどってみよう



古河 太四郎さん

### 手話の誕生

1878(明治11)年 京都盲啞院開校  
古河太四郎先生はろうの子どもたちに手話で教育をはじめました。

明治

### 手話の発展

1915(大正4)年 日本聾啞協会結成。  
ろう学校を卒業して大人になっても、ろう者は手話で話せる場を求めて集まりました。  
ろう者同士で話す中で、手話単語が増え、発展しました。



### ろうあ運動と手話の広がり

1969(昭和44)年 「標準手話」のテキスト発行  
ろう者たちは、車の運転免許が取れない、手話通訳が保障されないなど、さまざまな差別に対し辛抱強くたたかいました。



### 手話通訳制度の整備

1989(平成元)年 手話通訳士試験開始  
2001(平成13)年 手話通訳者全国統一試験開始  
ボランティアとされていた手話通訳は、手話通訳者として役所や団体に雇用されたり、必要な時に派遣される制度ができ、仕事として確立してきました。  
手話通訳の試験も全国的に始まりました。



大正

昭和

平成

### 手話が言語と認められる

2006(平成18)年 (国連)障害者権利条約採択  
2011(平成23)年 改正障害者基本法「言語(手話を含む)」と規定  
世界の条約や日本の法律の中で、手話が言語として認められました。

## 条例制定への期待



平成28年12月20日、三田市議会議場にて「三田市みんなの手話言語条例」の成立を見守り、仲間で喜びあつたのを覚えています。

当時、言語としての手話をさらに広めるために、条例制定に向けた学識経験者・聴覚障害者・意思疎通支援者などで構成される「三田市手話言語条例検討委員会」が設置され、長い議論を経て、「三田市みんなの手話言語条例」案が

作られました。

手話が言語として認知されたことに對して喜びを感じると同時に、今後

市民の方々に手話が広まることを期待しました。聞こえる人が普段話している日本語と同じ言語とし



## 条例制定から5年 生活の変化は?



定義されたからです。手話をコミュニケーション手段の一つと考えるのではなく、言語として認められたことは非常に嬉しく思いました。

市の事業として、はじめての手話体験や子ども手話教室、難聴者のための手話教室等が始まり、少しずつですが理解、普及が広が

つつあると感じています。教室や講座の数は増えましたが、今後は手話を学ぶだけでなく、学んだ手話で会話ができたり手話を知らない人でも気軽に集まる場ができて、私たちの日常生活の向上につなげていって欲しいと願っています。

新型コロナウイルス感染症が広がりはじめた頃、全国的に手話での情報発信が少ない中で、兵庫県下では手話による情報発信が始まり、市でも取り組みが進められました。市ホームページで予防接種の案内や感染対策の案内などが手話通訳が入った動画として配信され、少しずつ前進していると思います。また、身近な所でも手話を通じてコミュニケーションが取れたと感じたことがあります。

お店で店員の方に聞こえないと伝えると、手話で対応していただきスムーズに注文ができました。

他にもスーパーのレジで初めは手話ができなかったのに、何度か通ううちに覚えた手話で会話していただいたこともあります。このようなことが、日常的な出来事になって欲しいと願っています。

## 皆さんに伝えたいこと

2017年12月19日、国連総会で、9月23日が「手話言語の国際デー」に決まりました。

この「手話言語の国際デー」をきっかけにして、さらに手話が広がっていくことを期待しています。

幅広い世代の人たちに手話サークルや講座等に参加していただき、手話に関心を持ってもらえればと思います。そしてサークルに来てくださるとサークル自体が活性化され、また多くの世代で交流ができるので、色々な方に参加して欲しいです。そうした活動を通じて手話に関わる方が増えていけばいいなと思います。

「いつでも どこでも 誰とでも 手話でつながるまち 三田へ」

これが私たちの希望なんです。そんな三田市になることが私たちの理想です。挨拶だけではなく、気持ちが変わることが大事なのです。

## 三田聴覚障害者協会



手話を第一言語とする聞こえない人たちが共に学び助け合いながら、安心して暮らせる社会をめざして、手話の魅力や聞こえないことの理解を広げるなど様々な活動をしています。

## 手話サークル礎

幅広い年齢、様々な職種の人が集まり手話でろう者と交流し、手話の習得及び技術の向上をめざしています。また、ろう者と共に活動をし、聴覚障害の理解や手話の啓発に務めています。



インタビュー参加の皆さん

## 市の広報事業

「ユニバーサル」広報  
(音声・字幕・手話通訳)



問い合わせ先 秘書広報課 広報係  
TEL..079・559・5040  
FAX..079・563・1366

さんだ手話チャンネル  
(広報紙・動画配信)



問い合わせ先 障害福祉課  
TEL..079・559・5075  
FAX..079・562・1294

「うれしい、楽しい」

## 編集後記

一人一人に個性があり、人権があり、思いがあります。思いを伝えるために手話を使い、お互いが理解し合いたいと願う心が人を動かします。「あいさつ」から始まった手話も、それだけでは物足りなくなつて、一層深く話したいと思う気持ちになり、もっと広いコミュニケーションの世界へとつながっていきます。

聞こえない・聞こえにくい人たちをはじめ、誰もが生きやすい社会にするために私たちに何ができるでしょうか。「あいさつ」のその先にある「お互いに伝え合えた喜び」を実感し、誰もがいきいきと自分らしい生活ができる社会を作っていきます。



はじめての手話体験の様子



「ありがとう」

## 令和2年度 人権標語受賞作品

● その言葉  
鏡の自分に  
言えますか  
けやき台中学校1年(前年度)  
藤本蓮さん

## 人権に関する総合相談

TEL 559-5062 FAX 559-5063  
月曜～金曜 9時～17時(※祝日・年末年始を除く)

● 専門相談員による性的マイノリティ特設電話相談(予約)

TEL 559-5062 FAX 559-5063  
月曜～金曜 9時～17時(※祝日・年末年始を除く)  
※専門相談員との相談日は予約後に調整

● 人権擁護委員による定例人権相談(予約)

TEL 559-5148 FAX 562-1294  
《次回相談日》12月23日(木)13時～16時

「指でお話。友だちの輪！」



けやき台小学校 5年(前年度)  
田中 清愛 さん

## 三田小学校地域部会研修会

日時 令和3年12月12日(日) 13時~15時(受付12時30分~)

第1部 人権川柳・人権標語表彰

第2部 トライやる・ウイーク 八景中八景 2021 発表  
~八景中2年生による、八景中校区の魅力再発見の発表~

第3部 講演会「イヒが目指す三田の姿と実現までのストーリー」

講師 寺井 俊裕 さん(イヒ 共同代表理事・ゴボウキカク代表)

場所 三田市総合福祉保健センター1F 多目的ホール

三田市人権を考える会(人権推進課 TEL:559-5148 FAX:562-1294)

わたし  
No.177  
出会う  
気づく  
つながる

### 『言葉の消しゴム』

三田市立学園小学校教職員 村田 莉菜さん

#### 小学校2年生の頃 〜祖母から教わったこと〜

「○○ちゃん、腹立つわ!」興奮しながら学校から帰ってきた私を祖母が迎えに来てくれました。

小さいころから祖母はいつも私の話を静かに聞いてくれました。しかし、その日は私の様子からただならぬ雰囲気を感じたのか、「座ってゆっくり話してごらん」と私を落ち着かせようとしました。

「いやなことを○○ちゃんに言われたから、明日言い返そうと思うねん。あほって言われたから、言ったそっちがあほやって言い返したる」と怒りに任せて言うと、「言葉の消しゴムはないねんで」と祖母が言うのです。何のことかよく分からずにいると、

祖母は続けてこう言いました。「一度口から出てしまった言葉は、消せないよ。だから何か言う前にしっかりと考えなさい」そう言われても興奮していた私は、「分かっている!」と言い放ちました。

祖母と話した後で、明日会ったらどうしようかと考えているうちに、その子との楽しかったことや親切にしてもらったことを思い出しました。そして、「やっぱり明日仲直りしよう」と少し心が落ち着いてきました。

次の日、いつものように仲良く遊ぶことができました。あの時、怒りのままに言葉を並べていたら、きつとそれからの楽しい思い出をつくることは無かったのだと思います。

その後も、「言葉は消しゴムでは消えない」という意味が分かる出来事が何度もありました。消えないから「言わない」ではなく、「どんな言い方をしよう」「どんなふうに言ったら相手に上手に伝わるだろうか」と必ず考えるようになりました。

#### 大人になって 〜今の自分を振り返って〜

教師になって5年。「消しゴムで消せない」言葉を大切にしながら、相手の気持ちも自分の気持ちも大切に作る毎日は私は送れているだろうか。「先生あのね?」と尋ねてくるクラスの子に「ちよっとまってね。後で聞くからね」と答えた後で、その子とゆっくりと話をしているだろうか。登校することに不安な子に元気になる言葉をかけているだろうか。子どもを見送る保護者の方に安心していただく言葉をかけているだろうか。そう自問自答しながら、私は相手の何気ない一言に気を配り、消しゴムで消せない言葉で悲しい思いをさせないように心がけています。

言葉は子どもたちを元気に、笑顔にすることができます。また、言葉を大切にすることができるとは、人を大切にすることにつながっていると思います。私の口から出た言葉は、子どもたちや周りの方々から同じようなものとなって返ってきています。「消しゴムで消せない」残る「か」こそ、言葉は大切に選びたいです。私は自分の言葉は消しゴムで消せないということを心にとめて、一人の人間として自分の思いを丁寧に伝えていきたいと思っています。

